



「One for All, All for One」 ラグビーワールドカップ開幕！

9月20日から11月2日にかけて、アジア地区では初めての「ラグビーワールドカップ」が日本で開催されます。

ラグビーの競技精神として、「One for All, All for One」という英語が広く知られています。一般的には、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されていますが、この内容には諸説あるようです。元ラグビー日本代表監督の故・平尾誠二氏は、後半のOneは「一人」ではなく



「勝利」であるとし、「一人はみんなのために、みんなは勝利のためにというのがラグビーでは大切だ」と訴えていたそうです。私は若い頃、この「One for All, All for One」という言葉を学級訓に決め、学級の子どもたちがラグビーと同じように一致団結して、球技大会や体育大会、文化祭などの学校行事に取り組み、感動ドラマを展開していたことを思い出しました。



世界レベルのラグビーの試合を観戦する中で、自分の目標や学校内での自分の役割について考えるきっかけを得たいものです。

尊敬する人は???

「尊敬している人は誰ですか？」と問われたら、誰を挙げますか。世界34か国の小中学生を対象にした「親を尊敬していますか？」という、あるアンケート結果があります。それによると、日本以外の33か国では、「はい」と答えた子どもたちの平均は約95%で、日本は25%でした。



日本の子どもたちからは、「坂本龍馬」や「野口英世」などの偉人、「錦織圭」などのスポーツ選手が上位に挙がりました。著名人や偉人など、目標とする憧れの人物がいることで自己の向上心が芽生えるでしょう。尊敬の対象は、成長するにつれて変化していきます。



家族、友人、恩師、上司など身の回りの人たちが尊敬の対象となれば、その人たちの良い面を吸収しようと努力するようになるでしょう。それは、自分の向上にとっても大きなプラスとなるはずです。

そして、わが命を授けてくれた親を尊敬しているかどうか、子どもを持つ身であるならば、子どもから尊敬される存在なのかどうかも省みたいものです。